

令和2年度第1回守谷市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和2年7月22日（水） 午後4時00分～5時00分

2 場 所 守谷市役所議会棟2階全員協議会室

3 出席者

〔構成員〕 守谷市長 松丸修久

教育委員会

教 育 長

町 田 香

教育長職務代理者

山 本 キ ヨ

委 員

河 原 健

委 員

萩 谷 直 美

委 員

椎 名 和 良

〔事務局〕 教育部長

宇田野 信 彦

教育部次長兼学校教育課長

小 林 伸 稔

指導室長

古 橋 雅 文

主 事

尾 形 優

4 協議・調整事項

（1）GIGAスクール構想の実現について

5 会議の概要

○教育部長

本日、傍聴希望者はおりませんでしたので、会議を進めさせていただきます。開会にあたりまして、松丸市長からご挨拶をお願いいたします。

○松丸市長

お忙しい中ご出席をいただき、ありがとうございます。コロナ禍という例年にない、ある意味で緊張感があり、また、様々な意味で新しい模索が続いているというのが、現実だろうと思います。特に、教育においては長期にわたる学校の休業という中で、どのように対応していくか、もし生徒の発症が認められた場合どうするか等々、毎日、私以上に教育関係の皆さんは気が気ではない毎日を送っておられると思います。

そのような中で、以前より進めておりますタブレットを1人1台ずつ配布するGIGAスクール構想実現の前倒しが発表されました。これは国の動向を伺うのではなく、守谷市独自でも今年度は臨んでいたわけですが、国で整備費を負担する方向になりましたので、これを機にGIGAスクール構想を一気に進めたいと思います。また、守谷の新たな学校教育改革プランの一翼でもありますので、その点について今日は意見交換をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

○教育部長

ありがとうございました。次に、町田教育長から御挨拶をお願いします。

○町田教育長

市長ありがとうございます。私ども教育委員会の意見も聞いていただけるということで大変に心強いです。昨日、常総運動公園総合体育館でバレーの大会がありました。今日はバスケットボールを見に行きましたが、きらめき友情大会ということで、コロナの影響でできなかった総体の代替え大会がありました。1か月少々の練習期間だったと思いますが、非常に子どもたちが生き生きとして、大会名にふさわしいきらめく友情を、絆を確かめるような場面をたくさん見ることができました。大変幸せな気持ちになりました。子どもたちは素晴らしいと改めて感じたところです。市長にも23日、24日と、子どもたちの様子を見ていただきました。代替え大会ではありますが、非常に思い出に残る大会になると思います。

守谷のカリキュラムマネジメント、今年は教科担任制ということで新しい施策を打ち出して参りました。残念ながら4月、5月は休校になり、教科担任の位置付けや役割が不十分なところもありましたが、今は教科担任の先生方も非常に生き生きとしており、新聞にも何紙か取り上げていただきました。守谷が進めていることに関心を持っていただいていることをひしひしと感じています。先日、県の新しい教育長が初めての学校の視察先に、守谷を選んでくれました。9月に先進地視察ということで守谷を訪れます。

これから、GIGAスクール構想を機に、市長の言う子育て王国もりやの実現に向けて、我々学校関係者は一丸となって進んで参ります。それには、学校の環境整備、人材の確保など様々な部分で、教育委員会として要望していきたいと思います。今日はそういった話題も出てくるのかもしれませんが、守谷の子どもたちを幸せにするということで、ご理解をいただければありがたいです。いつも本当にありがとうございます。子どもたちに成り代わって御礼を申し上げます。本日はよろしくお願いいたします。

○教育部長

本日の会議ですが、GIGAスクール構想の実現についてご協議をいただきたいと思います。会議の主宰は、市長ということになりますが、形式的な進行については事務局で行わせていただきます。協議調整事項として、「GIGAスクール構想の実現について」を議題に、市長と教育委員会との連携を深める御議論をお願いしたいと考えております。

それでは、資料に基づき、事業の概要について所管課長から説明させていただきます。

○学校教育課長

GIGAスクール構想について説明させていただきます。まず、文科省が作成したパンフレットをご覧ください。こちらはGIGAスクール構想の概要が書かれています。また、資料No.1「守谷市におけるGIGAスクール構想の実現」が、市でまとめた資料です。まず前段として、今の時代、日常生活の様々な場面におきまして、パソコンやスマートフォン等の情報通信機器、いわゆるICT機器を使う機会が多いと考えます。教育においても、ICTを積極的に活用し、新たな時代Society 5.0というAI、人工知能、ビッグデータ、ロボット等の新しい技術が発展した社会に対応ができる人材を育成することが、今現在求められています。しかしながら、教育現場において、学校のICT環境の整備が遅れている

という自治体がかなり多くあります。こちらについては、文科省のパンフレットに、各自治体のICT環境の整備状況が記載されています。国の目標としては3クラスに1クラス程度の端末整備を、今まで計画を立てて進めていたところですが、現実はそのままで進んでいません。守谷市は国の目標基準である、3人に1台はすでにクリアしていますが、この状況下、国では教育格差が益々広がることを懸念し、昨年12月に全国の児童生徒が平等にICTを活用した教育を受けられるように、「GIGAスクール構想」と題し、令和5年度までに児童生徒1人1台の学習用パソコンと、クラウドを前提とした高速ネットワーク環境の整備計画を打ち出しています。

本市においても、市長が冒頭で申し上げたとおり、このGIGAスクール構想が出る前に、市長から1人1台を目標にしてはどうかというようなご提案も受けまして、令和2年度に校内のネットワーク環境の整備を進め、令和3年度から1人1台パソコンを整備する計画でございました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症に伴う休校措置などにより、オンライン学習ができる環境の整備が急務となり、本年度中に1人1台の学習用パソコンと、高速ネットワーク環境を整備するよう国の計画が大幅に前倒しとなり、本市におきましても、補助金を使い、ICTを活用した新しい教育環境に必要な整備を進めていきたいと考えています。

それでは資料No.1「守谷市におけるGIGAスクール構想の実現」をご覧ください。GIGAスクール構想の目的は、大きく3つあります。まず一つが、Society 5.0の新しい時代を生き抜く人材育成です。AI、ビッグデータ等の新しい技術が進展した社会におきましては、子どもたちに求められる能力も変化していきます。これからの社会は様々な情報が容易に入手できるようになりますので、その情報を整理分析し、その情報を活用できる能力を備えた人材を育てることが重要になります。新学習指導要領においても、この情報活用能力を、言語能力と同様に、学習の基盤となる資質、能力と位置付け、学校におけるICTを効果的に活用した学習指導が重要であると、示しております。

二つ目が、子どもたち一人ひとりの個性に合わせた教育の実現ということで、1人1台のパソコンを使った事業においては、児童生徒一人ひとりの習熟度や、学習速度に合わせて学習ができ、知識の定着に大きな効果が期待できるとされております。具体的には、パソコンでテストの課題等を行うことで学習データが蓄積され、不得意な分野等が明確となり、個々に指導を行うことができるようになるということです。また、子どもたちの中には、日本語指導を必要とする子や、発達障害等を抱える子もいるため、ICTを使って個々の能力、学力に応じたきめ細かな対応ができます。

三つ目は教員の働き方改革の実現で、授業中にパソコンを使い一斉に課題を出すことで、事前にテストプリントを用意し、配布する手間がなくなるというペーパーレス化が図れます。また、教職員の方の在宅勤務が実現できるため、働き方改革につながれると考えています。

このため、本年度は、大きく二つのハード面の事業を行う予定です。まず一つが、児童生

徒 1 人 1 台の学習用パソコンの整備となります。現在、守谷市では全児童生徒の 3 分の 1、約 2000 台の学習用パソコンがすでに揃っていますので、残りの 3 分の 2 の 4,000 台を、年度内に購入する予定です。

また、学校で 1 人 1 台のパソコンが円滑に活動できる校内のネットワーク環境を、大容量通信にも対応できるよう整備します。具体的には、校内 LAN 線の引き直し、体育館の Wi-Fi 整備、パソコンを充電する保管庫の整備を行います。

2 ページをご覧ください。こちらは本年度の環境整備のスケジュールとなります。本年度中に端末、ネットワークの環境の整備を進めますが、それぞれ多額の費用が掛かりますので、国の補助金を活用して 9 月補正に計上し、整備が完了するように急ピッチで準備を進めています。続いて、整備に掛かる費用についてご説明させていただきます。

追加した最後のページをご覧ください。こちらが、GIGA スクール構想令和 2 年度補正予算の案になります。まず、小中学校のネットワーク環境の整備については、約 1 億 9,000 万円、国の補助率が約 2 分の 1 です。その他につきましては市債、もしくは起債を組む考えです。端末の購入費につきましては、2 億 4800 万円で、国の補助金が 1 台当たり上限で 4 万 5000 円が出るので、1 億 8000 万円の補助が受けられます。パソコン端末管理システムのライセンス費、設定費用などは、市債での持ち出しになります。

その他、学校が休校になった場合の通信機器の賃借料や、GIGA スクールサポーターの配置費用等も含めまして、合わせて約 4 億 4500 万円になります。補正予算は 9 月の市議会に計上する予定です。

なお、こうした環境整備することが GIGA スクール構想の目的ではなく、ICT を活用してどのような教育を提供していくかが重要かと思います。その目指すべき守谷型の学びのスタイルについては、指導室からご説明させていただきます。資料の方は、3 ページと 4 ページになります。

○指導室長

続きまして私から 3 ページ、4 ページ、守谷市 GIGA スクール構想についてご説明します。1 人 1 台の端末が整備されれば様々な活用の幅が広がっていくと考えています。その中で大きく二つの用途があると思います。

一つ目は授業中での活用、そしてもう一つはオンラインにおける活用です。まずは授業中の活用についてご説明します。授業中の活用については、現在も 3 人に 1 台のタブレットがあり、活用しているため内容が大きく変わるというものではありません。現在の活用を進化、発展させていこうと考えています。他市町村との大きな違いについては、全教室に電子黒板が配置されていることです。これは守谷の大きな強みになっております。3 人に 1 台のタブレットと電子黒板を活用して、今までも ICT を活用した事業の蓄積が数多くあります。具体的には、現在 SKY システムというものを活用し、個の考えをタブレットに表し、それを電子黒板に投影し、考えを共有する方法です。

二つ目は、実技教科や理科の実験等で有効とされる動画の撮影、これをグループで行って

いますが、今後は様々な場面で、個々で行うことができます。

三つ目は、どの授業においても調べ学習をする際の辞典代わりにすることができます。これらの活動を、どの教科でも、どの授業中でも、どのタイミングでも行うことができることになり、現在の教育を進化させていくことができると思います。さらに今後、1人1台となれば、デジタル教科書の内容をタブレットに送信し、必要な部分だけを拡大表示して、児童生徒に今学習している部分を強調して取り組ませるといったことも可能になります。

また、現在はプリントで配布しているものを、デジタルペンを活用することで電子データとして送信し、回収することができます。児童生徒の考えや、思考の深まりをデータとして管理することも可能になります。資料集や辞書と同じような感覚で、タブレットを授業中、机の上に置き、必要な時に活用することができます。

続きまして、オンラインの活用についてご説明します。児童生徒に1人1台のタブレットを貸出し、各家庭でも活用することができれば、今までとは全く違う方法が考えられます。

一つ目は、Z o o mを利用し、双方向によるオンライン授業が現実的なものになります。二つ目は、G o o g l e社のクラスルームというソフトを活用し、宿題をはじめとするプリントのやりとりをクラウド上で行うことができるようになります。この二つができるようになれば、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、再度の休校になったような場合でも、授業の保障ができます。現在Z o o m、クラスルームのアカウント取得を始め、活用できるよう急ピッチで準備を進めているところです。いくつかの小中学校では、夏休み中に参加可能な児童生徒とZ o o mを使って家庭とつなぐテストを行うところまで進んでいます。こういったZ o o mを活用した双方向の授業、クラスルームも活用したデータのやりとりが可能になれば、例えば長期に病氣療養している児童生徒への授業の配信、本人が嫌がらなければ、不登校児童生徒への授業の配信、適応指導教室等とつなげて不登校児童生徒の授業の参加なども考えられ、活用の幅は大きく広がっていくものと思います。

この構想をまとめたものが次の4ページにあるイメージ図ですが、このように一斉授業でも、個別でも、また家庭学習でも、様々なソフトを利用して、いかなるときにも活用できると思います。一方、活用の幅を広げるということは、それだけ先生方のスキルが今以上に求められるという課題も出てきます。特にクラスルームというソフトについては、私もですが、先生方が今まで活用したことはほぼゼロという状態で、これから先生方も使い方について学習し、研究を進めていくという段階です。随時、研修等を開催し、活用できるように進めていきます。このような現状も踏まえ、教職員が無理なく、メリットを実感しながら継続して活用できる方法を研究し、来年の導入に向けて準備を進めていきたいと思います。以上です。

○教育部長

資料の説明につきましては、以上となります。資料の内容、或いは説明に対する何かご質問がありましたら、ここでお受けしますがいかがでしょうか。

—質 疑—

○椎名委員

ネットワーク構成について、通信機器整備、Wi-Fiルーターのレンタルを2か月間、300台で394万円とありますが、Wi-Fiルーターそのものを各家庭に貸す予算ですか。

○学校教育課長

はい。こちらの300台は家庭環境にもし通信機器がない、パソコンを持ち帰っても、全く使えない家庭に対して貸出す台数を300台と見込んで予算を組んでいます。国の補助金制度はありますが、機器を市で購入し、家庭に貸与することが条件になります。レンタル会社と協議し、賃貸借契約もできるということがわかりましたので、今回はコロナ対策として市で独自に予算を組み、レンタルをさせていただいている状況です。以上です。

○山本委員

本当に前倒しでやってくださってありがたいと思うわけですが、この計画でいくと、納品が今年度末ということですか。

○学校教育課長

はい。納品は機械本体だけであって、学習用ソフトは、新年度の予算に計上し、新年度当初に入札し、それから導入します。既存の2,000台のリース期間が8月と10月に分かれています。その2000台も入れ替えなければならないので、実際にこちらで想定している本格稼働は、令和3年度の夏休み明けを想定しています。ですから、夏休みを使って学校の先生たちには、学習ソフトなどの使い方を学んでいただき、9月からスタートできればと考えています。以上です。

○山本委員

ありがとうございます。要するに3月には物が納品され、中身は来年度に入れていくということですね。

4校に1人いるICT支援員を入れると国の施策にありますが、学校側だけの増員で足りますか。教育委員会の事務局として何かやっていくことはないのですか。

○学校教育課長

市で今も2,000台の管理をしています。それが増えて6000台になると、担当1人で管理運営するのは難しいです。また、タブレットを納品後、どのように先生たちに指導していくのか、操作方法を教えるのか、今後は指導室も増員していかないと、うまく機能させていくのは、人的に厳しいと感じております。以上です。

○山本委員

ICT支援員を4校に1人配置している国の施策もあります。それではやっていけないということですか。教育委員会事務局側にも担当の職員がいなくてはならないということですか。

○学校教育課長

はい。ICT支援員につきましては、現場の先生からの相談にも対応しているので、タブレット自体も管理していくことになると、人員的に厳しい状況です。

○教育部長

I C T支援員は、授業に使う上での支援、どういうふうに使うか、どう活用しようか相談を受ける人員です。事務局で台数が増えて難しいと申し上げたのは、単純な機械の管理と、故障障害、通常の管理というものが、今までの台数の3倍になってくるということです。

I C T支援員は基本的に管理をする人員ではないので、活用の部分で支援していただきます。非常に台数が増えて大変になるのはその管理の部分です。今後そういったところも増員で対応していきたいです。

○指導室長

市として6,000台、1人1台、さらにオンラインを実現させて家庭までと想定したときに、3者がうまく動かないと駄目だと考えています。一つは教育委員会、タブレットを維持管理する学校教育課です。新しいものに入れ替えるための準備、壊れてしまった時の対応、そういったメンテナンスを含めた機器そのものの管理は、今後は、現状の人数で運営していくのは厳しいと思います。

2つ目は、学校現場の先生方がZ o o mをどうやって立ち上げ、動かせるのか、クラスルームはどうやって使うのかといった部分を、指導してもらうのがI C T支援員になります。このI C T支援員は、現状4人で足りるかどうかかわからないです。そこは新しいオンラインの学校運営を始めるにあたって、先生方の基礎的な知識と、Z o o m、クラスルームを夏休み等で研修し、次年度スムーズに動けるようになるかは実際に動き出してみないと、何とも言えないところです。

3点目は家庭です。Z o o mを使うので、家庭で準備してくださいと言われ、保護者が何を準備するのか、という家庭におけるI C Tの知識の問題は一番未知数です。こちらのマニュアルを指導室で作成し、Z o o mの操作方法、クラスルームの操作方法を、今まで触ったこともない、聞いたこともないという家庭がどれくらいあるか。それに対する問題についてこちらも勉強し、家庭にも頑張っていたらダメな部分もあると思います。この機器管理、先生方の管理運営、保護者の支援、子どもたちが家に誰もいなくても自分でできる状態を作れたとして、うまくいくまでにどういったハードルがあるのかというのは、これから模索し、その都度修正していくことになると思います。

－協 議－

○教育部長

それでは、ご協議をお願いします。

○松丸市長

今まで子育て王国もりや、いきいきシニア王国もりや、まちづくり協議会による地域住民主導のまちづくりの三本立てでやってきたが、ここへきてデジタル化を早くやらなければという思いでメーカーなどと協議してきました。だからもう一本スマートデジタル王国もりやを、学校教育とはまた別の分野になるかもしれないが、役所そのものをデジタル化、行政改革として仕事等の改革もしていかなければならないことがもう否応なしに待っていま

す。

今回のコロナ禍を進まなければいけないということで、担当する部署も作り、デジタル化によって働き方、変えていかなければならないところを変えていく部署を作っていきます。学校側のソフト面について、今まではハード面の整備が中心で、本来それはメーカーにお願いすればいい。外部にアウトソーシングすればいい話で、内部の人間でしかできないことを推進することと、学校との連携が必要になると考えます。

○町田教育長

G I G Aスクール構想の体制を整備していくということで、他自治体では、推進課を教育委員会の中に作った事例がある。難しいかもしれないが、教育委員会の中にG I G Aスクールに対応できる部署、グループができれば飛躍的に進んでいく。

○松丸市長

もう一つ課を作っても良い、外部から招聘してもいいから、これが軌道に乗る例えば1年間や2年間で外部から人を呼ぶなど大胆に発想しないと進まない。

○町田教育長

あともう一つ、G I G Aスクールサポーターは、これは今の4人とは別ですか。

○学校教育課長

これは設計などの業務になるので、I C T支援員とは別です。

○山本委員

この人たちは、学校側に張りつけになるのではないかな。

○教育部長

支援員の方は学校側です。補助にあるサポーターは今回の補助金を活用するにあたってサポートするだけで、今後の活動には携わらないです。

○山本委員

目標数字の中にI C T支援要綱に1人配置とあるが、これは学校にも張りつき、補助金があるのではないかな。

○教育部長

国からの補助金はない。国から補助金が出るのはG I G Aスクールサポーターと言い、今回導入するにあたって、技術的な支援をしてくれる人にサポートしてもらう人を雇いますというのが国の支援です。

○町田教育長

守谷はすでにI C T支援員を配置している。問題があるとすれば、新しい体制ができた後に、今のI C T支援員4人で大丈夫なのか。4校に1人ずつのI C T支援員での配置で、実際に足りるかどうかはわからない。増員が必要なのか、4人の配置を工夫し、今と同じ体制で大丈夫なのかこれから研究する。

○山本委員

I C T支援員は3人でできるのではないかな。学校の援助だけでなく、教育委員会事務局側

のICT専属の職員が必要だと思う。新しい課，グループができ，新しい職員を配置していただければ，強力な体制はでき上がる。

子どもたち，児童生徒のために莫大なお金を掛けるので，市長よろしくお願いします。

○松丸市長

守谷は準備を進めてきているから，軌道に乗ると思う。ゼロスタートの場合は，物だけあり宝の持ち腐れになってしまう。スピード感持ってやることが必要で，来年の9月からと言わず，4月からやる勢いでやって欲しいと思っている。3人に1人の端末があるからこの半年で一挙に進め，4月1日から使えるぐらいのスピード感を持ってやって欲しい。

○山本委員

9月に補正をして10月に契約締結になる。納品に半年もかかり難いと思う。

○学校教育課長

守谷市だけではなくて，全国の自治体，学校が整備を進めており，相当な台数になります。また，今の端末と，今度導入する端末は別物です。そのため，今現在の端末で使える部分と，新しい端末でないと使えない部分がどうしても出てきてしまいます。

ただ，新しいものの方が教育現場にとって非常に使いやすいメリットがあるということに変えていく。調整しながら，できることは先にやっていきます。

○町田教育長

今の体制の中で進められるところもあるのではないかな。

○事務局

今の端末にあるソフトは学校の中でしか使えません。これからソフトを学校の外，クラウドに出すことになる。それによって，自宅でも，学校外でも使えるようになります。そのため，ネットワークの整備も含めて，全面的に刷新をすることになります。コロナ対策で先生方の負担も非常に大きいところから，オンライン授業に関わる部分を優先しつつ，今後の新しい運用ができるよう同時並行で準備を進めていきます。

○町田教育長

今度入れる端末と既存の端末では，機種が違うのでいろんなことができるのか。

○事務局

はい。既存のソフトは制約が多く，これから納品する端末が今の端末と違うので，大きく変わります。

○教育部長

今使っているのは，タブレットというのは同じですが，Windowsベースで動いています。今度導入しようとしているものはiPadで，オペレーションシステムが違います。

もう一つは，ネットワークに関しては，基本的に速く，容量を増やすことで，影響する部分がそれほどありません。ただ単にインターネットが使えればいいということではなくて，クラウドが今の学校にはありません。それを市として，今年度予算で当初からクラウド化を進めようとしていました。今回は3事業を並行してやります。クラウドのシステムの用意

と、前倒ししたネットワーク整備と端末整備、この三つが同時進行なので、先に物が来たから先にやれるとは限らないです。それについては、順々に進めていくしかありません。

○松丸市長

ハードもできるだけ早く入れた方がいいということか。早く動いていい。どんどん進めて構わない。

○教育部長

共同調達について別に固執するつもりなので、臨機応変にやりたいと思います。ただ、一番重要で、先に我々が整備しようとしていたクラウドの準備ができてないので、先に端末が入っても動きません。クラウド、インターネット側にシステムを構築していないといけません。

○河原委員

G I G Aスクール構想の実現に必要なものをハード、ソフト、指導体制に分けている。そこを区分けして、ハード整備のための予算と人材、ソフト整備のための予算と人材、指導体制を充実させるための予算と人材と考えるとすっきりする。教育委員会の中も、ハード面を整備する部門、指導体制を構築するための研修体制やI C T支援員などの人材配置と整理すると、どの程度の人員を配置すればよいか分かる。

教育に携わる者として、学校現場のデジタル化が大きく進むことに期待をしている。ぜひ進めていただきたい。

○松丸市長

これを進めるには体制を作らないといけない。短期間でやるなら体制を作ればいい。

○町田教育長

体制については計画を立てて進めていく。

○河原委員

守谷市全体の価値を上げるので、守谷は進んでいてほしい。ぜひ、守谷の学校はナンバーワンを目指してほしい。

○松丸市長

子育て、教育に重点を置かないと魅力のある街にならない。守谷に行って教育を受けたいと思われるよう、皆さんの誇りになるようトップランナーでいたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

○教育部長

ご協議いただきありがとうございました。事務局は協議いただいた内容を受け、進めたいと思います。それでは以上で、令和2年度第1回守谷市総合教育会議を閉会とさせていただきます。皆さまありがとうございました。